

## 「一貫作業システムに係る現地検討会」を開催しました

令和5年11月9日(木)、西川町大字入間の国有林で、「一貫作業システムに係る現地検討会」を開催しました。

この検討会は、日頃から民有林関係者と情報交換・意見交換を行っている中で、民有林関係者において国有林の生産事業で導入している一貫作業システムへの関心があることから、民有林と国有林の連携を進める取組の一環として開催したものです。

現地検討会の会場は、今年度、当署が一貫作業システムを含む生産事業を実行している、西川町内の国有林に設定し、民有林行政関係者から山形県(森林研究研修センター)、森林整備センター山形水源林整備事務所、山形市森林整備課、西川町みどり共創課に参加いただきました。また、地域林業事業体から当署発注の生産事業を請け負う西村山地方森林組合、北村山森林組合、(株)荒正に参加いただき、各組織から合わせて15名が参加されました。当署からも生産事業担当者、森林事務所森林官のほか、日頃現場に行く機会がない他業務担当者もOJTを兼ねて参加しました。

当日は好天に恵まれ、現地では、出材を待つ素材がまき建てられた土場で本生産事業の内容や出材状況等について共有した後、開設された作業路を歩いて、伐採・搬出後の再造林を行う区域に至り、コンテナ大苗の植栽を行いました。本生産箇所での作業を請け負う西村山地方森林組合からは、一貫作業システムへの取組を通じて得られた所感について述べていただき、メリットとして、生産から造林までの事業量が一括して確保できたこと、造林に際しての苗木の運搬に生産事業に利用した重機を使用できたこと等が挙げられました。一方で、課題としては、コンテナ大苗の植栽に当たっては、普通苗の場合と比較して工期が抑制されたこと、今後の諸作業を見据える上で広葉樹やタケの侵入状況に応じて適切に地拵えを計画することが望ましいこと等が挙げられました。

また、今回は、一貫作業システムに係る現地検討会として開催しましたが、国有林としての生産事業の現場を民有林関係者にご覧いただく機会にもなり、機械化を見据えた苗木の植え付けのあり方や、レーキ等を活用した地拵えの導入といったことについての見通し、コンテナ大苗に対応したディブルの開発状況などについての意見交換・情報交換も行われました。当署にとっても、受注者をはじめ関係者との意見交換を通じて、今後の発注内容の水準を向上させていく動機を与えていただくことができました。今後も、民有林関係者と情報交換・意見交換を継続し、意義のある意見交換・情報交換の場を作っていきたいと考えています。



